

連続セミナー

日本経済の長期低迷、 コロナ危機、未来への示唆

1960年代末までに米国に次ぐ規模まで発展し、高度成長と日本的経営を賛美するベストセラー「ジャパン・アズ・ナンバーワン」にとり上げられた日本経済。その後80年代バブルの形成と崩壊、デフレと低成長を経て、世界経済におけるプレゼンスを急激に低下させました。内外から日本経済を考察してきた荒巻健二・東京女子大学教授が、その分析を提示するとともに、受講生からのインプットを求め、議論します。「何故、日本は低成長と将来不安に支配される国となったのか？」これからの日本経済・社会の再生に向けた知的なディスカッションに参加してみませんか？

講師

荒巻 健二

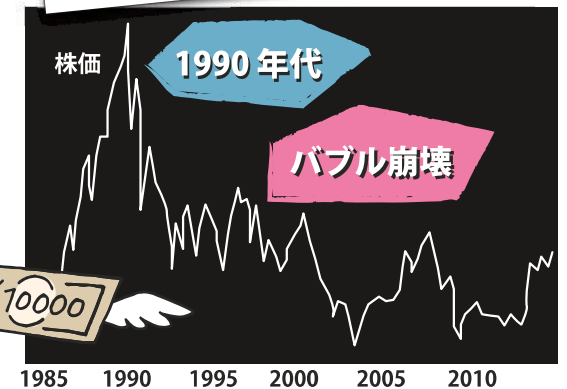
東京女子大学特任教授、東京大学名誉教授
(元大蔵省(財務省)・IMFエコノミスト、ロンドン大学客員教授)



ゼミナール形式で

この教材を使用します。

『日本経済長期低迷の構造
—30年にわたる苦闘とその教訓』
荒巻 健二 著 / 東京大学出版会



通し受講のみ

全7回

毎週水曜日

10月28日～12月9日 午後7時～8時30分

定員：24人(先着制) 受講料：7000円

オンライン会議アプリZOOMを使用した連続セミナーです。ご自宅などからご参加ください。



Peatixでのお申し込み・お支払いです。

お申し込みURL <https://peatix.com/event/1627418>

お問い合わせ電話 0422-40-0313 三鷹ネットワーク大学推進機構

申込期間▶9月23日(水)9:30～10月27日(火)21:00

QRコードからも
お申し込みいた
できます！

文化・教養	東京女子大学企画【Zoom オンライン講座】 連続セミナー「日本経済の長期低迷、コロナ危機、 未来への示唆」	C205 1500
-------	--	--------------

講座趣旨
<p>日本経済は、第二次大戦後の「冷戦」構造のなか高度成長を経て 1960 年代末には資本主義陣営で米国に次ぐ第二位の規模に発展し、70 年代の石油危機も乗り越え、極めて低い失業率と安定的な成長を誇る経済の優等生でした。ところが、その後 80 年代に巨大なバブルを形成し、90 年代初頭のその崩壊以降、長期にわたり低成長、更にデフレに悩み、世界経済におけるプレゼンスを急速に低下させました。全 7 回の本講座では、80 年代のバブル形成に遡りその原因を探り、これを踏まえ、その後の長期低迷、デフレのメカニズムの理解を図ります。更に、2013 年に本格始動したアベノミクスの成果を評価するとともに、本年勃発した新型コロナウイルスによる経済危機のインパクトを考え、これらを踏まえ、日本経済が危機を乗り越え、今後とも安全で豊かな経済社会を維持していくために何が必要かを考えます。</p>

講座開催概要			
日 程	全 7 回（令和 2 年 10 月 28 日～ 12 月 9 日、毎週水曜日）通し受講のみ 午後 7 時から午後 8 時 30 分まで	留意 事項	<ul style="list-style-type: none"> Zoom オンライン会議システムを使った「オンライン講座」です。インターネット環境と端末については、ご自身で用意してください。 本講座は、講師と受講者の間および受講者同士双方向の意見交換を重視する「ゼミナール方式」を採用します。双方向のディスカッションのたたき台とするため、下記のとおり、受講者は 3 回の「1 ページレポート」の提出が求められます。 「1 ページレポート」の詳細については、第 1 回目の講座のなかで詳しく説明します。
定 員	24 人（先着制）		
受講料	7,000 円 ※Peatix でのお支払いとなります。		
教材	講師著書（下記参照）、レジュメ資料		
難易度	★★★		
会場	Zoom オンライン会議システム （ご自宅などからご参加ください）		
申し 込み	WEB https://peatix.com/event/1627418 9 月 23 日（水）午前 9 時 30 分～10 月 27 日（火）午後 9 時		

講座内容
<p>講座の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> 本連続セミナーは、次表のとおり各テーマに基づく 3 セッション（同一テーマ 2 コマ× 3 セッション＝6 コマ）と最終回 1 セッション（1 コマのみ）の合計 4 セッション、全 7 回（7 コマ）で構成されます。 （最終回を除き）各セッションは、そのセッションに対し設定されたテーマについての講師による講義 1 コマと、講師による講義を受けて受講者が作成・提出する「1 ページレポート」に基づく受講者による報告及び全員による討議 1 コマからなります。 最終回は全体を総括する講義及び討議を行います。 受講者は下記の使用教材を事前に購入してください。 <p>なお、出版社からの直接購入を希望される方は、送付先の住所、氏名を 10 月 11 日（日）午後 5 時までに事務局のメールアドレス（info@mitaka-univ.jp）にご連絡ください。出版社に手配を依頼します（本体から 20%の著者割引、送料・振込手数料いずれも無料）が適用されます。</p> <p>使用教材（テキスト）</p> <p>『日本経済長期低迷の構造—30 年にわたる苦闘とその教訓』 荒巻健二著、2019 年 4 月、東京大学出版会、344 ページ、5,400 円（税別）</p>

各セッションの内容				
区分	月日	講座題目 (コマ)	種別	講座内容
セッション1	10月28日 (水)	1-1、日本経済の30年にわたる変調と世界経済におけるポジションの低下、コロナ危機の衝撃 1-2、1980年代のバブル形成とその背景	オリエンテーション・講義	冒頭10分で、全7回の講座の進め方や1ページレポート提出方法を解説します。受講者は、簡単な自己紹介をして、ひとこと意気込み等共有します。 1-1、1980年代のバブルの形成からその崩壊、長期経済低迷、デフレ、アベノミクスに至る30年にわたる日本経済の変調と困難、世界経済における地位の低下、更にそこを襲ったコロナ危機のこれまでのインパクトを概観します。 1-2、1980年代の巨大な資産価格インフレ(バブル)進行のプロセスとその原因を探ります。
	11月4日 (水)	グループディスカッション1「バブル形成の原因は何か。これを防ぐために何ができたのか」	報告・討議	バブルの原因と対応に関する受講者による「1ページレポート」の報告と討議を行います。 <レポート提出締め切り> 11月1日(日)正午
セッション2	11月11日 (水)	バブル崩壊、金融危機、長期低迷のメカニズム	講義	1990年代初頭のバブル崩壊、90年代後半の金融危機の衝撃とその下で形成された日本経済長期低迷のメカニズムを検証します。
	11月18日 (水)	グループディスカッション2「バブル崩壊後の金融危機の原因とインパクト、長期低迷のメカニズムはどのようなものか」	報告・討議	バブル崩壊後の金融危機の原因とそのインパクト、長期低迷のメカニズムに関する受講者による「1ページレポート」の報告と討議を行います。 <レポート提出締め切り> 11月15日(日)正午
セッション3	11月25日 (水)	アベノミクスとコロナ危機	講義	2013年以降推進されたアベノミクスの下での日本経済の推移を概観し、そこを襲ったコロナ危機の衝撃を探ります。
	12月2日 (水)	グループディスカッション3「アベノミクス下の日本経済をどう評価し、コロナ危機のインパクトをどう見るか」	報告・討議	アベノミクス下の日本経済の評価とコロナ危機のインパクトをどうとらえるかについて、受講者による「1ページレポート」の報告と討議を行います。 <レポート提出締め切り> 11月29日(日)正午
セッション4	12月9日 (水)	全体総括	講義・討議	1) 講師が全体を総括しつつ、日本経済の課題について受講生と討議します。 2) 講師と受講者全員が講座全体を振り返り意見交換します。

1 ページレポートについて

- ・受講者には、A4サイズで1ページ程度の「1 ページレポート」の提出が求められます（各グループディスカッションにつき1本、計3本）。
- ・1 ページレポートには、そのセッションのテーマ（例えば、「1980年代のバブルとその背景」）に関する出来事（新聞雑誌などの記事の抜き刷りでも可）やデータ（例えばゴルフ会員権の価格推移）とそれに対するご自身のコメント、あるいはバブル形成の原因・対処策についてのご自身の考えとその論拠などを簡単に記述します。
- ・受講者は「グループディスカッション」（報告・討議）週の前の日曜日正午までに1 ページレポートを電子メールに添付して三鷹ネットワーク大学指定アドレス（info@mitaka-univ.jp）宛に提出していただきます。
- ・講師は、主要なものをピックアップし、報告・討議時に指名して内容を紹介してもらい、それに基づき討議を行います。

講師紹介（敬称略）

荒巻 健二（あらまき けんじ） 東京女子大学特任教授、東京大学名誉教授

1974年 一橋大学社会学部卒業、76年 一橋大学法学部卒業・大蔵省入省

1980年 オックスフォード大学大学院経済学修士、87年 IMF 財政局エコノミスト

1996年 大蔵省国際金融局開発金融課長 97年 長崎大学経済学部教授

1999年 経済企画庁調整局財政金融課長、京都大学客員教授

2001年 京都大学経済学博士、04年 東京大学大学院総合文化研究科教授

2014年 ロンドン大学東洋アフリカ研究学院客員教授 17年 東京女子大学現代教養学部特任教授

（主な著書）

『日本経済長期低迷の構造－30年にわたる苦闘とその教訓－』2019年 東京大学出版会

“Japan’s Long Stagnation, Deflation, and Abenomics Mechanism and Lessons” 2019 Palgrave Macmillan

『金融グローバル化のリスク－市場の不安定性にどう対処すべきか－』2018年 日本経済新聞出版社

『アジア通貨危機とIMF－グローバリゼーションの光と影－』1999年 日本経済評論社